

# 高校改革の動きを知る

## 神奈川県教育委員会に聞く 県立高校改革

高校を取り巻く状況は、人口減少社会の到来や社会構造の変化、価値観の多様化の中で、大きく変わりつつある。今回は、特別企画として、高校改革の動きとして綿密な計画を立てて改革を開始した神奈川県教育委員会の県立高校改革状況をレポートする。

### トップが語る 地域の教育改革の“戦略”

#### 個性重視の教育から 教育の質保証へ

これまで神奈川県は社会変化に対応し高校改革を実施してきた。1973～1987年の「高校百校新設計画」では生徒急増期に対応して、県立高校を165校に増やし、高校進学を確保した。その後の生徒減少期には「県立高校改革推進計画」を策定し、個性重視の教育に対応する改革を行ってきた。2016年1月に策定した「県立高校改革実施計画」は、少子化による生徒数減少への対応、生徒の価値観の多様化を念頭に置いたものとなっている。

県内の公立中学校卒業生数は1988年の12万2000人をピークに、2029年にはその半数まで減少する。従って適正な規模に基づく県立高校（全142校）の再編・統合が必須である。ただし、

教育の質は保証しなければならないので、今後はさまざまなテーマの取り組みへの資源の再配分を通して、質の保証を図っていく。「県立高校改革推進計画」で増設した総合学科高校は数を絞り、志願者数の多いクリエイティブスクールなどは増設する予定だ。

また、地域住民と共に知恵を出し合う高校運営をめざし、全校に学校運営協議会を設置して、コミュニティ・スクールを拡大する。

#### 生徒の視点に立つという 改革のコンセプト

今回の改革計画のコンセプトは「ステューデント・ファースト」で、「生徒の学びと成長にとって何が必要かという視点を再優先する」という考え方だ。これを実現するには、生徒自身の考えや学力の伸びを把握しておかなければ



神奈川県  
教育委員会  
教育長  
桐谷 次郎

きりたに・じろう●1980年入庁。政策局政策総務部長、商工労働局長、産業労働局長を経て、2014年から現職。

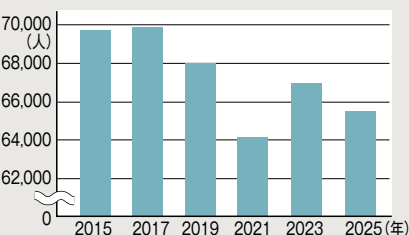
なければならない。そのため、高校2年生を対象に隔年で実施していた学力調査を毎年に変更し、生徒アンケート調査、学校評価や第三者評価なども加えて、計画の成果検証に活用していく。

神奈川県は総合的な教育の指針として2007年に「かながわ教育ビジョン」を策定し、「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかがわる力」の育成を教育目標とした。これをふまえ、今回の改革において高校でめざす生徒像として「自分で考え、判断、行動する力を身に付ける」ことを重視し、変化する時代に対応する力を育むとした。

もう1つ重視したのはグローバル化への対応だ。これだけ人・モノ・金がグローバルに動く世の中になると、グローバル化への対応は決して一部のエリートに限られるものではない。国際バカロレア認定推進校ではリーダー層の育成にも着手するが、英語検定の受検支援ですべての子どもに英語力を高めてもらい、どんな時代になっても生きていける力を身に付けてもらおうと思っている。

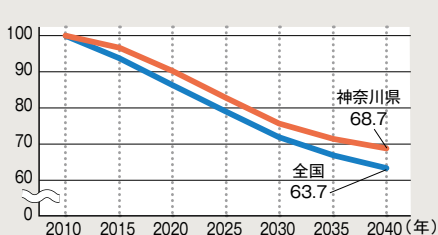
#### 基礎データ

●公立中学校卒業予定者数



※神奈川県教育局調べ。各年3月の数値。  
2015年は実績数値、2017年以降は推定値。

●0-14歳人口推計の指数(2010年実績=100)



※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2013年3月推計)より作成。

## 担当者に聞く 公立高校改革の“戦術”

### 長期にわたる検討の結果 改革実施計画を策定

「県立高校改革実施計画」（以下「実施計画」）を策定するまでには長い検討の経緯があった。2000年から10年間実施された「県立高校改革推進計画」の成果や課題を受け、2014年に有識者による県立高校改革推進検討協議会が設けられ、今後の県立高校の将来構想が検討された。

協議会から2014年6月に出された「県立高校の将来像」では、「質の高い教育の提供」「インクルーシブな学校づくり」「施設・設備の抜本的な改善」「学校経営の改善と充実」「県立高校の適正な規模と配置」の5項目が示された。教育委員会はこれを受けて2015年1月に「県立高校改革基本計

画」を策定し、重点目標に「教育面の充実」「地域のコミュニティとしての役割」を加えて7項目とし、3つの柱にまとめた。今回の実施計画は、この基本計画をより具体化している（図表）。

地域住民にとっては、地元の高校がなくなると心配する点から改革の柱3「再編・統合」に関心が集まりがちだ。しかし、改革の柱1に「質の高い教育の充実」とあるように教育の中身を重視している。県立高校改革担当の鈴木豊課長は、「時代に合わせた教育改革と高校再編の両方を行うというメッセージを込めている」と話す。

### 3期 12年の計画は I期の成果がカギ

実施計画は3期、各4年からなる。



神奈川県教育委員会  
教育局 総務室  
県立高校改革担当課長  
**鈴木 豊**  
すずき・ゆたか

中長期の計画を検討するにあたり、すでに生まれている子どもが中学を卒業するまでの15年は人口推計が確実なため、この期間内の12年を計画の対象とした。I期は2016～19年度、II期は2020～23年度、III期は2024～27年度であり、現在はI期の実施計画のみが発表された段階だ。

改革の進行状況をふまえて、各期の最終年度の前年度に次期の実施計画を策定する。鈴木課長は、「I期で始める取り組みや学科改編が多いため、まずは着実にこれらを推進していくことがポイントだ」と語る。なお、最後のIII期の計画策定時には全体の進捗と社会状況の変化等に鑑みて、実施計画全体の必要な見直しがされる予定だ。

### 改革の柱1は 「質の高い教育の充実」

具体的に実施計画の内容をみていく。改革の柱1「質の高い教育の充実」は、生徒の多様性を尊重して個性や能力を伸ばす趣旨だ。3つの重点目標には、自立する力や社会を生き抜く力の育成、個性の伸長、インクルーシブ教育の推進等が挙げられている。

重点目標1にある教育課程の改善は全校を対象に卒業するまでに身に付ける学力や人間性・社会性等を明示した教育目標を定め、その達成のための教

育課程を編成する。編成→実施→評価→改善のサイクルで、カリキュラム・マネジメントの確立もめざす。効果は県独自の生徒学力調査によって検証する。なお、教育課程研究開発校として11校を指定し、新科目「公共」や学習評価について研究を進める方針だ。

重点目標2にあるグローバル化に対応した教育の推進では、グローバル教育研究推進校に6校、国際バカロレア認定推進校に1校を指定する。また、生徒募集で海外帰国生徒枠や在県外国人枠を有する高校も増設する。

重点目標3のインクルーシブ教育の推進は、全国でも類例を見ない取り組みだ。知的障がいのある生徒とない生徒が共に学び共に育つ教育を行うインクルーシブ教育実践推進校を3校指定し、最終的には20校程度まで拡大する。鈴木課長は「共生社会の実現に向け、これまで高校での受け入れが十分ではなかった知的障がいのある生徒に、高校教育を受ける機会を拡大する」方針だと説明する。

### 改革の柱2は 「学校経営力の向上」

改革の柱2は、学校の運営体制・環境改善などに関するものだ。学校経営を改善するための重点目標として、評価システムの充実、民間人材の活用、教職員の研修体系の構築を行う。また、地域との協働による学校運営の推進、ICT環境の整備から施設の老朽化対策まで取り組み、領域は幅広い。

重点目標5に対応するコミュニティ・スクールは、地域住民と学校が学校運営や地域づくりで協働するものだ。学校評議員に代わる学校運営協議会（委員は校長を含む10人以内）を設置し、学校運営に関しての現状共有や話し合いを行う。指定校は初年度に5

校、毎年対象校を増やし、I期の最終年度には全校に拡大する。

重点目標6は教育環境の整備で、東日本大震災後に強化された耐震化対策にとどまらず、老朽化やトイレ環境の改善（洋式化）まで広がっており、「トイレ対策は予算上の目玉」（鈴木課長）となっているという。

### 指定校選定は 5地域のバランスを配慮

改革の柱1・2の対象校は県立高校の一部が対象のものも多い。指定は、各校の特徴や過去の取り組み等をふまえて、基本的に教育委員会が行った。鈴木課長は「過去の県立高校改革推進計画の場合は、ほぼすべての高校に何らかの指定がされたが、今回は全校の約半数の指定とした」と語っている。

指定校を決める際には、地域バランスが考慮されている。県内を5地域に分け、各テーマで各地域の中心になる学校を1校指定し、I期で成果を出す。II期以降も各地域の指定校数を維持しながら指定校の入れ替えも行い、同様の取り組みを実施しつつ、各地域内で拡大していく。

なお、各校の特徴となる「ミッション」が、2016年度当初には各校に教育長から伝達される。指定校にはその内容に沿ったミッションを示す。非指定校に対しては、学校がどういう人材を育成するのか、ということを示す。

### 改革の柱3は 「高校の再編・統合」

改革の柱3は高校の再編・統合だ。再編でめだつのは、教科科目が自由に履修できる「総合学科」の数が縮小し、「専門学科」が増加することだ。「総合学科では、生徒が希望する履修科目に偏りが見られ、本来の趣旨か

ら外れてきていた。進学をめざす生徒もいる中で、進学のために役立つ科目選択も可能とする改編をすることにした」（鈴木課長）という。総合学科11校（全日制）のうち、3校は単位制普通科、1校は専門学科に改編される。

「普通科と専門学科の併置」は1校から8校に増加する。3校の普通科専門コースは専門学科に改編され、普通科と併置される。その結果、普通科に在籍しながら美術系科目など専門学科の専門科目を学びたい、という生徒の要望に応えられる。そのほかに高校の統合による併置も2校ある。なお、他の普通科専門コースも9校すべて改編され、通常の普通科になる。

中学校までの学習内容の学び直しを掲げる「クリエイティブスクール」は、中学生の保護者や教員からの学び直し・キャリア教育の要望に対応し、新たに2校増設する。地域バランスを考慮して、今まで設置していなかった県の中央部・西部に設置した。少人数指導、弾力的な学級編成等のため、教員の力量が問われるという。

なお、I期での高校の統合は6つで、全日制高校同士の統合は4つ、他は全日制と定時制高校の統合となる。

### 多様な生徒を育成する 神奈川の教育

鈴木課長は、「今回の実施計画で多様な生徒に、勉強面だけでなく、豊かな人間性、高い社会性を身に付けさせる教育を実現し、全体的な教育の底上げをしていく」としている。

この4月から始まる実施計画で、多様な価値観を持った人材の育成に力を入れる神奈川県。高大接続改革でも、多面的評価による入学者選抜に関心が集まる中、今後の生徒の成長が注目される。

図表 県立高校改革実施計画における改革の柱と重点目標

<p><b>改革の柱1 質の高い教育の充実</b></p> <p><b>【重点目標1】すべての生徒に自立する力・社会を生き抜く力を育成します</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の改善</li> <li>授業力向上の推進</li> <li>プログラミング教育の推進</li> <li>生徒の英語力向上の推進</li> <li>歴史・伝統文化教育の推進</li> <li>学習機会拡大の推進</li> <li>学習意欲の向上と確かな学力の育成</li> </ul> <p><b>【重点目標2】生徒の個性や優れた能力を伸ばす教育に取り組みます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の改善〔再掲〕</li> <li>科学技術・理数教育の推進</li> <li>グローバル化に対応した先進的な教育の推進</li> <li>専門教育の推進</li> <li>国の研究開発にかかる指定事業の活用</li> </ul> <p><b>【重点目標3】共生社会づくりに向けたインクルーシブ教育を推進します</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談体制の充実</li> <li>インクルーシブ教育の推進</li> </ul>	<p><b>改革の柱2 学校経営力の向上</b></p> <p><b>【重点目標4】学校の教育目標の着実な達成をめざす学校経営に取り組みます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自律的・組織的な学校経営の充実</li> <li>県立高校への理解を深める情報提供の推進</li> <li>教職員の実践的指導力向上の推進</li> </ul> <p><b>【重点目標5】地域の新たなコミュニティの核となる学校づくりを進めます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域協働による学校運営の推進</li> </ul> <p><b>【重点目標6】生徒が安全・安心で快適に学べる教育環境の提供に取り組みます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県立高校の教育環境整備</li> </ul> <p><b>改革の柱3 再編・統合等の取り組み</b></p> <p><b>【重点目標7】少子化社会における適正な規模等に基づく県立高校の再編・統合に取り組みます</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校規模の適正化の推進</li> <li>課程・学科等の改善</li> <li>県立高校の適正配置</li> </ul>
--	---

\*インクルーシブ(inclusive)は「包括的な」の意味。インクルーシブ教育とは「共生社会の実現に向け、障がいのあるなしにかかわらず、できるだけすべての子どもが共に学び、共に育つ教育」。